

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部建築学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える＜学びの基幹＞である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが＜学びの基幹＞を育むことを目的としている。	
基幹教育科目	課題協学科目	課題協学科目	この科目では、専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材（協学課題）を提供する。授業では、みなさんが協学課題を考えるために必要となる講義に加えて個人演習やグループ作業を実施し、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢や問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的としている。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語・アカデミックイシューズ	リーディングとリスニングの実践的ストラテジーを学び、学術的素材による演習を通じてアカデミックな受信技能を開発する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語・グローバルイシューズ	世界の諸問題を含むリーディングとリスニングの題材を用い、批判的受容の演習を行う。さらにそれに基づいたディスカッションを行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語・CALL 1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（基礎）である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語・プロダクション1	アカデミック・ライティングの基礎となる5段落エッセイを作成し、学会発表の基礎に繋がるグループプレゼンテーションの技法を学び実践する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語・プロダクション2	引用や参照文献の作法を学んで自分で設定したテーマについて学術的（リサーチ）ペーパーを作成し、個人プレゼンテーションを実践する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・CALL 2	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。単位認定は、2年前期に実施する英語力診断テストの成績も加味されるため、2年前期の科目として行われる。定められた授業時間帯を持たないため、学期開始後の学習開始時期やその方法等については別途の連絡に従うこと。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語・アカデミックイシューズ」、「学術英語・グローバルイシューズ」及び「学術英語・プロダクション1/2」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。コンピュータ・ネットワークを用いたe-learning用教材による自律学習。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	専門英語	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要表現方法を身につけ、より専門性を意識した特定目的の学術英語における基礎能力を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語 I A	アルファベートの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を身につけることが目標である。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語 I B	引き続き基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」初歩的な運用能力を完成させる。ドイツ語圏の社会や文化について理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語 II A	ドイツ語 I A、I Bで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」やや高度な運用能力を身につけることが目標である。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡAで培った基礎知識、基礎的な運用能力をもとに、初級段階で学ぶべきことを完成させ、中級への足がかりとなる文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」より高度な運用能力を身につける。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで培った基礎知識、運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培った基礎知識、運用能力をもとに、中級段階を完成するレベルの文法事項及び文型を学び、様々な専門分野でドイツ語を活用できる足がかりを築く。ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものを含む様々な教材や方法を用いて、ドイツ語の総合的な知識と能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅠ	ドイツ語ⅠA、ⅠBを修得し、ドイツ語ⅡA、ⅡBで学習しつつある基礎的なドイツ語運用能力を実践的に定着させるために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで習得した基礎的なドイツ語運用能力をさらに確実なものにするために、実践的な方法や教材でドイツ語の運用能力を高める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅢ	より高度なドイツ語の「読み・書き・話し・聞く」の4技能獲得をめざして、「話し・聞く」コミュニケーション力の涵養に加えて、「読み・書き」の練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠA	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅠB	基礎的な日常的フランス語を「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡA	フランス語ⅠA、ⅠBで修得した基礎知識をもとに、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語ⅡB	比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」能力を修得する。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語Ⅳ	フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで培ったフランス語の知識と運用能力をさらに発展させて、作文能力、読解能力、会話能力の総合的なコミュニケーション能力の中級段階を完成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティクⅠ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBで修得した文法事項を復習し、フランス語ⅡA、ⅡBで学習中の文法事項を確実なものにする。さらに正しい発音を身につけて、コミュニケーション能力の育成とフランス語圏の文化についての理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティクⅡ	リスニング・口頭表現の練習を通じて、フランス語ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBで修得した文法事項を復習し、フランス語Ⅲで学習中の総合的コミュニケーション能力を確実なものにすると同時に、フランス語圏の文化についての理解を深め、実践的会話能力を養う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	フランス語プラティクⅢ	より高度なフランス語の「読み・書き・話し・聞く」の4技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野でフランス語を活用できる足がかりを築く。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠA	中国語の発音を習得する。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）である。あわせて、基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅠB	中国語の基本的な語彙、文法と表現を学ぶ。引き続き、発音の習得を重視し、入門段階の発音を完成させる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡA	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。発音練習にも力を入れながら、初級段階での運用能力を身に付けていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語ⅡB	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話すことができるようにする。初級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、中級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	中国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語Ⅳ	中国語Ⅲまでに学んだことをふまえて、より高度な語彙や表現を学ぶ。中級段階で獲得すべき運用能力を完成させ、上級への足がかりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	中国語ⅡA、ⅡBと同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、実際のコミュニケーションの場面で使える基本的な中国語運用能力を獲得する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の4技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得に重点をおく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語実践Ⅲ	より高度な中国語の「読み・書き・話し・聞く」の4技能獲得を目標として、「話し・聞く」コミュニケーション力に加えて、「読み・書く」能力の涵養をもめざす。中級段階を完成し、様々な専門分野で中国語を活用できる足がかりを築く。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	中国語集中演習	中国語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。毎年春休みに実施しているCLP-C（中国語研修）等の内容に基づいて単位が認定される。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅠA	ロシア語をはじめ学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業である。ロシア語の文字の読み方・書き方、初級レベルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。簡単で短いロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅠB	「ロシア語ⅠA」にひきつづいて、初級レベルの文法と語彙、簡単な会話表現を勉強する。入門的文法を体系的に習得するとともに、それらの知識をもちいて簡単なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡA	「ロシア語ⅠA」「ロシア語ⅠB」をふまえて、基礎レベルの文法項目を学ぶとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語ⅡB	「ロシア語ⅡA」にひきつづいて、基礎レベルの文法項目を取得するとともに、語彙を増やし、より長文の平易なロシア語を読み、聞き、話し、書くことができることをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	基礎レベル文法を取得した学生を対象とした中級レベルの授業である。本格的なテキストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などにとりくむことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することをめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	ロシア語Ⅳ	より高度なロシア語運用能力の取得をめざす学生を対象とした授業である。本格的な文学作品などの読解や、長文による自己表現（会話、作文、プレゼンテーション）にとりくみ、中上級レベルのロシア語の実践的な総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）の取得をめざす。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅠA	現代韓国語ソウル方言（以下「韓国語」とする）の発音と文字を習得する。音のレベルと字母のレベル、文字のレベルを峻別しつつ、ハングルが正確に読めるようになることが目標である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅠB	ハングルの読み方を復習し、発音を重視しつつ、韓国語のごく基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡA	韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語ⅡB	引き続き、韓国語の基礎的な語彙と文法を学ぶ。初級レベルの総括となる授業であり、中級レベルへの足掛かりとする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBで学んだことを土台とし、中級レベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語Ⅳ	韓国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲで学んだことを土台とし、さらに高度なレベルの韓国語を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅰ	韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語表現演習Ⅱ	引き続き、韓国語の「表現」に焦点を絞り、中級以上のレベルの韓国語を学ぶ。語彙を増やし、表現力と読解力の涵養を企図する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅠA	本科目ではスペイン語の、①文字と音の関係、②基本的な規則動詞と不規則動詞の現在形の活用、③もっとも基本的な文法構造の習得を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅠB	本科目では「スペイン語ⅠA」に引き続き、スペイン語の基本的な文法構造の習得を行い、直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡA	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれる。「文法」クラスでは「スペイン語ⅠA」で学んだ内容を発展させ、直説法現在以外の時制の表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な小説、エッセー等が読めるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅠA」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語ⅡB	本科目は「スペイン語ⅡA」に引き続き、「文法」クラスでは、接続法を使った表現を学ぶ。この「文法」クラスを履修すれば、辞書を頼りに、スペイン語で書かれた簡単な新聞記事、論文等を読むことのみならず、スペイン語による簡単なメールやエッセーの作成ができるようになる。また、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語ⅡA」に引き続き、スペイン語のさらなる実践的な表現を練習していく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」の2種類のクラスがある。受講者は指定のクラスとは別に希望するクラスを受講することができる。「作文」のクラスでは、「スペイン語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材としながら、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅳ	本科目ではスペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という総合能力の向上のみならず、広くスペイン語圏の言語・文化・社会について深く理解することを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅰ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の、特に、「話す・聞く」能力の向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語表現演習Ⅱ	「スペイン語ⅡA・ⅡB」を履修した人を対象に、スペイン語の「聞く・話す・読む・書く」という4技能のさらなる向上を目指すクラスである。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅰ	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的话题から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的话题から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅴ	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅵ	日本語Ⅴ終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅶ	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論説文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Beginners A	日本語学習経験の無い学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Beginners B	Integrated Courses : Beginners A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の授業体制で、日常生活でよく使われる基本的な語彙・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるように練習する。また、ひらがなとカタカナの読み書きを学び、日常生活で使用される日本語で書かれた基本的な語句や文を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1A	日本語で簡単な挨拶や日常会話ができ、ひらがな・カタカナで書かれた語句や文の読み書きができる人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 1B	Integrated Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活で使用される語彙・表現や文法を学ぶ。自分や身の回りの状況について簡単な説明ができ、日常的な話題についてやり取りできる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2A	初級前半の文法、語彙およびその使い方を学習し、日常的な話題について簡単なやり取りができるレベルの人を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Elementary 2B	Integrated Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常生活に必要なやや難しい語彙・表現や文法を学び、自分の生活や経験、身の回りの出来事について説明したり、感想や意見を言ったりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Intermediate B	Integrated Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、身近なさまざまな話題を取り上げ、初級文法の復習・応用と中級レベルの基本的な文法を学習しながら運用能力を高めるとともに、語彙・表現を増やすことで日本語の表現力を伸ばす。身近で関心のある多様な話題について主要点を理解でき、事実を説明したり、自分の意見を述べたりすることができる日本語能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1A	初級文法の学習を終了し、中級レベルの学習を半ばまで進めている人を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 1B	Integrated Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、文法や語彙の練習のほか、読解や聴解も行う。中級中期の文法を学んだり、短い読み物の読解を通して、語彙や表現を増やしたりする。また、学んだ文法や語彙・表現を使用して、身の回りの一般的な事象についてある程度詳しく説明する練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 2A	初級文法を正確に運用でき、基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Intermediate 2B	Integrated Courses : Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Advanced A	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Pre-Advanced B	Integrated Courses : Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Advanced A	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Integrated Courses : Advanced B	Integrated Courses : Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 1A	初めて日本語を学ぶ学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日々の生活や大学でよく使用される漢字約80字を紹介する。授業では漢字の正しい字形や筆順、音読み・訓読みの別を確認するとともに漢字語彙の構成についても学ぶ。漢字の学習に先立ち、カタカナの導入＋定着練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 1B	Kanji Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、新たに漢字約60字を導入する。Kanji Courses : Elementary 1Aで学んだ漢字と併せて、日常生活・大学生活で使用される漢字を学習し、それらの漢字単独で、或いはそれらの漢字を組み合わせてできた漢字語彙の意味、用法を理解するとともに、それらの漢字・漢字語彙の読み書きも正しく行えるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 2A	Kanji Courses : Elementary 1B終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、広く日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。授業では漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Elementary 2B	Kanji Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、引き続き日常場面で使用される漢字および、それらの漢字を含む漢字語彙を学習する。漢字の正しい字形、筆順、音読み・訓読み等の基礎知識を確認するとともに、漢字の字源や核となる意味などを学び、漢字・漢字語彙の適切な運用力養成を目指した練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Intermediate A	初級終了程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用条件などを学ぶ。漢字、語彙、文法を体系的に整理しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Intermediate B	Kanji Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で書かれた具体的な内容を表す漢字および語彙を学習する。授業では画数、筆順、音訓、漢字の意味などの基礎知識を確認するとともに、学習漢字を含む語彙、語彙の意味、語彙を使用するために求められる文法や語彙の使用環境などを学ぶ。漢字、語彙、文法を学習しそれらの運用能力を高めることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 1A	中級日本語の学習を開始した程度の学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙の運用能力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 1B	Kanji Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的で幅広い内容について書かれた漢字・語彙、および新聞等で使用される漢字・語彙を練習する。授業では、音訓、部首、意味などの基礎知識を学習するとともに、文脈からの語彙意味類推、複合漢字の意味構造分析、漢字語の意味からの文意の理解などを通して、漢字と語彙のより高度な運用力養成を目指す。また、漢字の覚え方、整理法などについて自分に適した学習法を見つける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 2A	中級前半程度の日本語を学ぶ学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。特に語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げるために、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙について学ぶ。また、漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けをする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Intermediate 2B	Kanji Courses : Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、日常的な場面で使用される難易度の高い漢字・語彙、および一般教養的な内容等で使用される漢字・語彙を学習する。「Kanji Courses : Intermediate 2A」で身につけた知識およびストラテジーを活用し、語彙についての分析力を高め語と語のネットワークを広げる。また、語構造、漢語と和語の関係、自動詞と他動詞の語彙、語が使用される適切な文脈など幅広い角度から漢字語彙を学ぶ。漢字の覚え方・整理法などについて自分に適した学習法を確立する手助けも行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Advanced A	中級後半程度の学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、新聞や雑誌の一般的な記事などを読むのに必要とされる使用頻度の高い漢字と語彙を学習する。授業では、例えば反義語、漢語動詞、同音異義語などの観点から、語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Pre-Advanced B	Kanji Courses : Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし週二回の体制で授業を行う。授業では、解説・評論・新聞などで使用される漢字と語彙を学習する。授業では、例えば、語構成、同訓異義語、類義語などの観点から語彙の意味や機能を構造的に分析することで学習を進めていく。最終的には一般教養的な授業で使用する漢字と語彙を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Advanced A	新聞の論評や一般教養的な内容の文章を読むことができるレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から幅広いトピックを題材にそれらで使われる漢字と語彙を学ぶ。学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Kanji Courses : Advanced B	Kanji Courses : Advanced A終了程度のレベルの学生を対象に週二回の体制で授業を行う。授業では、様々な専門分野である程度共通して使用される漢字と語彙を学習する。授業では自然科学や経済、人文科学などの分野から様々なトピックを取り上げ漢字と語彙を学ぶ。最終的には、学生が自分の専門分野や興味の対象に応じて漢字力と語彙力を伸ばしていくことことで大学高年次レベルの講義を理解できる能力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Elementary 1A	日本語学習を始めたばかりの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Elementary 1B	Speaking Courses : Elementary 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができるよう練習する。また、短いスピーチなどを行うことを通して、身近な話題について相手に基本的な紹介ができるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Elementary 2A	初級前半の文法知識がある学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Elementary 2B	Speaking Courses : Elementary 2A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、日常的なさまざまな場面でのロールプレイを行い、よく使われる表現や言い回しを理解し、用いることができるよう練習したり、自分の身近な話題についてスピーチを行ったりする。これらを通して、日常生活でできるだけ日本語でコミュニケーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Intermediate A	初級文法の学習を終了した学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Intermediate B	Speaking Courses : Pre-Intermediate A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、スピーチや簡単なディスカッションを通して、身近な出来事や事柄を説明し、自分の意見を言えるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 1A	中級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 1B	Speaking Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。身近な場面での様々なロールプレイを通して、その場の状況や会話の目的、相手との関係に合った適切な表現を使い、適切な談話構成で話せるよう練習する。また、ディスカッションやスピーチを通して、フォーマルなスタイルで意見を述べたり、ある程度詳しく具体的な出来事や事柄が説明できたり、自分の考えや意見を述べたりできるようにする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 2A	中級後半の文法知識がある学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Intermediate 2B	Speaking Course : Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、ロールプレイ、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を行い、個人的な話題からより抽象的、社会的な話題まで様々なトピックで話す練習をする。また、場面や相手を意識した待遇表現も学ぶ。これらを通して、上級話者になるために必要な技術の習得を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Advanced A	中級レベル文法・語彙の学習を終了した人を対象とする。週二回の授業体制でスピーチや音読などを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Pre-Advanced B	Speaking Courses : Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。さらに難易度の高いスピーチや音読、ディベートなどを行う。スピーチでは、社会的な話題について論理的かつ聞き手に伝わるように話せる力を身につけるようにすることを目指す。音読では、聞き手に伝わる発音や話し方を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Advanced A	中級レベルまでの文法を正確に運用して会話を行うことができ、新聞や一般的な内容の記事を読んですぐに大意が取れるレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Speaking Courses : Advanced B	Speaking Courses : Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、社会的な話題や時事問題、日本事情などを取り上げ、スピーチやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど様々な形式で話す練習を行う。あらゆるトピックについて自分の意見を明確に相手に伝え、相手の考えも理解しながらより深い議論ができたり、聞き手をひきつける話し方ができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 1A	日本語初級終了程度の学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、「です・ます」体の文章を書く練習から始め、文体の違い、句読法や記号、原稿用紙での書き方など作文の基礎知識を身に付ける。また、メールや手紙など決まった形式のある文章の書き方を学ぶ。これらを通して、日常的で身近なテーマについて自分の経験や考えを書くことに慣れる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 1B	Writing Courses : Intermediate 1A終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、レポートなどのフォーマルな文章を書くための準備をする。授業では、既習の作文の基礎知識を使いながら、様々な種類の文を書くことを通して、表現技術を身に付ける。最終的に600～800字の作文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 2A	基本的な中級文法の知識がある学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、小論文に適した表記やよく使われる表現、文体などの小論文の書き方のルールを学んだり、接続詞の使い方や序・本論・結びからなるレポートの構成を学んだりする。そして、これらに則ってレポートを書く練習をする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Intermediate 2B	Writing Courses : Intermediate 2A終了程度のレベルの学習者を対象に、小論文に適した文体や、序・本論・結びからなる構成、意見と事実の区別、データ・参考文献などの引用の仕方を学ぶ。また、説明文、要約文、意見文など様々な種類の文章の書き方を学ぶ。最終的に1000～1200字の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Pre- Advanced A	日本語中級終了程度の学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、プレゼンテーションや小論文とは異なるレポート・論文の構成（序論・本論・結論）とレポート・論文によく使われる表現を学び、論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	Writing Courses : Pre- Advanced B	Writing Courses : Pre-Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。これまでに学んだレポート・論文の構成、及びレポート・論文でよく使われる語彙・表現を用いて、レポートを書く練習をする。最終的に、大学の学部生レベルで要求される2000～3000字程度のレポートを書き上げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	Writing Courses : Advanced A	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	Writing Courses : Advanced B	Writing Courses : Advanced A終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では、大学学部レベルのレポートや研究発表の要旨、学術論文などを書く力をつけることを目標とする。授業では、さまざまな研究分野の学術論文を読み、参考文献の探し方、レポートや学術論文の構成、およびそれぞれの構成要素に用いられる文・表現・文章のパターンを学び、日本語による学術的文書の書き方を練習する。最終的に、各自がテーマを設定し、5000字程度の論文を書き上げる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	哲学・思想入門	この授業は、世界各地・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行う講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいだが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	先史学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした考古学および人類学の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の考古学・人類学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなか咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって人類が残した物質文化から人類の歴史を、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	歴史学入門	この授業では、高校までに学んだ日本史、世界史とはまったく異なる「大学で学ぶ歴史学」とは、どのようなものか、九州大学の教員が、日本古代史から近代史、また西洋史、東洋史、朝鮮史、イスラム史など様々な専門分野を踏まえて、入門講義を行うものである。過去の人間の営為は、単なる人名や出来事の集積ではない。一見無味乾燥な個々の歴史的事実をわずかな手がかりからいかに明らかにするか。そして、明らかになった事実から、いかに人間社会の豊かな多様性を再構成するか。それらを学ばなかで、現代の我々が過去の積み重ねの中に生きていることの意味と、その重要性を知ることができるだろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文学・言語学入門	この授業では、古今東西さまざまな時代と地域に根ざした文学および言語現象の研究について、九州大学が誇る学界第一線の教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。それは単なる趣味的な段階の文学・言語学への関心を、本格的な研究として開花させてゆくためのレクチャーと言える。履修する学部1年の皆さんには、時にはなかなか咀嚼できないような難解な資料を目にする機会となるであろうが、私たちにとって文学とは何か、そしてコトバとは何であるのかを、その根源に立って考えることは、文系・理系の専攻を超えて、人間そのものを考え続けてゆく最も有効な経験となるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	文化人類学入門	文化人類学の学説史を回顧し、この学問の独自性として、われわれの暗黙の前提となっている思考を批判的に捉えなおす視点を学ぶ。フィールド調査と民族誌を方法論とし、また文化、社会、体系、構造などを基礎概念として展開してきた20世紀中盤までの「古典期」にあたる文化人類学の蓄積を踏まえ、21世紀における文化人類学の新しい可能性をも素描する。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	地理学入門	地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれない。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるだろう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法について考える。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	社会学入門	社会学 (sociology) は、社会の (socio-) 論理 (-logy) を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもあり、あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理(法則)が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの方を学んで行く。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることは、文系・理系の区別を超えて、人間とは何かを考え続けてゆく力を受講者に与えるであろう。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりや深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりや学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりや深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指すこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。この意味で教育学とは、様々な生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指していくこととする。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の多様な分野のうち、法概念論、憲法学、民法学、刑法学等の考え方を紹介しつつ、受講者を法学の広く奥深い世界へと誘うことを目指す。 【キーワード】 法学、リーガルマインド、裁判	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	政治学入門	政治学の基礎理論を学習するとともに、それらの理論を適用して現代政治の動態を分析する。加えて、政治学や現代政治が直面する諸問題についても考察する。 【キーワード】 政治学、現代政治、政治学・現代政治の諸問題	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉強で作り上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代の問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で紹介する。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	入門微分積分Ⅰ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、1変数および2変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅰでは、主に1変数関数の微分を扱う。 【キーワード】 極限とその性質、微分の定義と計算、積分法の初歩 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、2変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	入門微分積分Ⅱ	入門微分積分ⅠとⅡを通して学習することにより、1変数および2変数関数の微積分学の基本事項を学ぶ。入門微分積分Ⅱでは、主に2変数関数の微分、積分、2重積分を扱う。 【キーワード】 積分法、2変数の偏微分、2重積分と累次積分 【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、高次導関数、変数分離型微分方程式の解法、2変数関数のテーラー展開、極値、陰関数定理とその応用から選択的に付加することがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅰ	<p>微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。</p> <p>微分積分学Ⅰでは、主に1変数関数の微積分を扱う。</p> <p>【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）</p> <p>【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学Ⅱ	<p>微分積分学ⅠとⅡを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。</p> <p>微分積分学Ⅱでは、多変数関数（主に2変数関数）の微分積分学を扱う。</p> <p>【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換）</p> <p>【備考】 クラスの進度により、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたりすることがある。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅰ	<p>入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法を学習する。</p> <p>【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、逆行列、行列式</p> <p>【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	入門線形代数Ⅱ	<p>入門線形代数ⅠとⅡを通して学習することにより、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。入門線形代数Ⅱでは、主に行列と線形写像の関係や固有値、固有ベクトルを学習する。</p> <p>【キーワード】 行列と線形写像、固有値と固有ベクトル</p> <p>【備考】 クラスの進度に応じ、ⅠとⅡの内容の一部を入れ替えたり、行列の対角化、数ベクトル空間と部分空間、数ベクトル空間の内積、から選択的に付加することがある。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学Ⅰ	<p>線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。</p> <p>線形代数学Ⅰでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。</p> <p>【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列</p> <p>【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 線形代数学Ⅱ	線形代数学ⅠとⅡを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学Ⅱでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化 【備考】 クラスの特性により、線形代数学Ⅱの「線形空間・線形部分空間」「線形写像」と線形代数学Ⅰの「行列式」などを入れ替える可能性がある。余裕があれば正定値行列、二次形式なども扱う。	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 数学演習 A I	【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 数学演習 A II	【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 数学演習 B	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微分積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、1変数及び多変数関数の微分法及びその応用、1変数及び多変数関数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 身の回りの物理学 A	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Aでは主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目 身の回りの物理学 B	主に文系学生を対象とした科目。身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。 Bでは主に電磁気学、波動（光、音など）を扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。 (高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。)	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学概論演習	力学概論に対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式(微分方程式)が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 電磁気学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 電磁気学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学を理解する。 (高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。)	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学概論演習	電磁気学概論に対応した演習科目。 電場と磁場の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学概論、電磁気学概論、熱力学概論の全てを一緒に選択することを強く推奨する。 熱力学概論演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 熱力学基礎の内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な熱力学を理解する。 (高校物理未履修の理系学生対象、文系学生も履修可。)	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学概論演習	熱力学概論に対応した演習科目。 熱力学の概念を理解し、簡単な熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎	<p>自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。</p> <p>力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。</p> <p>物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその1例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の3法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。</p> <p>(高校物理既履修者対象。)</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学基礎演習	<p>力学基礎に対応した演習科目。</p> <p>力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式(微分方程式)が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎	<p>自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。</p> <p>電磁気学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。</p> <p>物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその1例としての電磁気学を対象として、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。</p> <p>(高校物理既履修者対象。)</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電磁気学基礎演習	<p>電磁気学基礎に対応した演習科目。</p> <p>電場と磁場の概念をより深く理解し、電気・磁気現象に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎	<p>自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎の全てを一緒に選択することを強く推奨する。</p> <p>熱力学基礎演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。</p> <p>物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその1例としての熱力学を対象として、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。</p> <p>(高校物理既履修者対象。)</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	熱力学基礎演習	<p>熱力学基礎に対応した演習科目。</p> <p>熱力学の概念をより深く理解し、熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展 A	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Aでは主にマクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展 B	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。 Bでは主にミクロなスケールでの物理現象を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代物理学基礎	「力学基礎、電磁気学基礎、熱力学基礎」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への概論として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要な物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α 線、 β 線、 γ 線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α 壊変、 β 壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	【キーワード】 身近な化学、環境、生活、技術、産業 【概要】 化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから解説する。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を解説する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学 I	【キーワード】 無機化学、周期表、原子の電子構造、無機化合物、化学反応例 【概要】 無機物質化学 I では、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、無機物質化学 II を履修することで無機化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学 II	【キーワード】 無機化学、化学結合、溶液、化学反応例 【概要】 無機物質化学 II では、無機物質化学 I に引き続き、原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、化学結合と物質の成り立ち、溶液と化学反応について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅰ	<p>【キーワード】 有機化学、有機化合物命名法、有機立体化学、有機化合物と物性、化学反応例</p> <p>【概要】 有機物質化学Ⅰでは、まず、有機化合物の基本的な成り立ちについて原子軌道論および分子軌道論に基づいた理解を深める。また、有機化学を学ぶ上で重要な基本的な記述法および命名法等の基本的な素養の習得を進める。さらに、有機化合物の構造および物性について理解を深める。</p> <p>本科目に合わせて基礎科学結合論Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学Ⅱ	<p>【キーワード】 有機化学、有機化合物と分子変換、化学反応例</p> <p>【概要】 有機物質化学Ⅱでは、有機物質化学Ⅰで学んだ有機化合物の構造および物性をもとに、その性質を利用した各種分子変換法について理解を深め、有機化合物の成り立ちや物性について概観する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅰ	<p>【キーワード】 ルイス構造、電子対反発モデル、波と粒子、前期量子論、シュレーディンガー方程式、波動関数</p> <p>【概要】 ルイス構造に基づく古典的な化学結合論を概観し、化学結合において電子対が重要な役割を担うことと、電子対が互いに反発する性質を利用して分子の構造を簡便に予測できることを解説する。その後、電子のように非常に小さな対象を記述する方法である量子論の基礎を解説する。この科目の後、基礎化学結合論Ⅱを履修することで、化学結合を現代的な立場から理解できるように計画されている。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論Ⅱ	<p>【キーワード】 原子軌道、水素原子、多電子原子、分子軌道、混成軌道</p> <p>【概要】 「基礎化学結合論Ⅰ」で学んだ量子論に基づいて、化学結合を現代的な立場から解説する。まず、水素原子について、原子軌道の特徴づける量子数、収容される電子のエネルギーを学ぶ。次に、複数の電子をもつ一般の原子について、原子軌道に電子を収容する組み立て原理を学ぶ。さらに、二つの原子の原子軌道から分子軌道が形成されて、二原子分子の化学結合が生じる原理を説明する。進度に応じて、三原子以上の分子など、さらに発展的な内容も用意されている。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅰ	<p>【キーワード】 気体の法則、熱力学第1法則、熱力学第2法則、エントロピー</p> <p>【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では気体の法則からスタートし、熱力学の基本法則（第1法則、第2法則）の基本的な考えを学び、物質の変化を巨視的に取り扱う基本的な手法を学ぶ。この科目を修得後、基礎化学熱力学Ⅱを履修することで化学熱力学の幅広い知識が得られるように計画されている。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学Ⅱ	<p>【キーワード】 自由エネルギー、化学ポテンシャル、純物質の状態と状態変化</p> <p>【概要】 物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが重要である。この講義では基礎化学熱力学Ⅰでの履修内容を基に、分子の集合状態やその変化を自由エネルギーの観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	<p>【キーワード】 最先端の化学、化学の現状、化学の未来、社会と化学</p> <p>【概要】 無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から21世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原則に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを知る。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学 I	<p>【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸</p> <p>【概要】 生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学 II	<p>【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物、酸素、硫黄あるいはハロゲン含有化合物、アミン、アルデヒドとケトン、カルボン酸</p> <p>【概要】 基礎生物有機化学 I で学習した内容を踏まえて、生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学 I	<p>【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、</p> <p>【概要】 タンパク質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深める。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学 II	<p>【キーワード】 単糖、多糖、脂質、生体膜核酸</p> <p>【概要】 糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	<p>機器分析法は物質の同定、化学構造、存在量の決定などには必須の方法である。広く用いられている機器分析法の中から、各種分光学的分析法を中心に、それらの基礎原理と応用を講義する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学 A	<p>授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など） 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学B	<p>授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生物学概論	<p>細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	<p>生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成） 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	<p>主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	<p>遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎） 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	<p>増加し続ける世界の人口に対応するためには、効率的で安定した生物生産技術を確立する一方で、生物資源の利用形態を環境保全型で持続可能な形態に変えていく必要があり、これは人類にとっての大きな課題である。この問題を理解していくためには、個体以上のレベルでの生命現象を科学する生態学が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベルから生態系レベルまでの総てのレベルでの、生物と環境との相互関係の法則性を理解する必要がある。</p> <p>具体的な内容は以下のような項目からなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に対する生物の個体レベルでの反応を科学する生理生態学 ・環境に対する生物の個体間レベルでの行動生態学、個体群生態学、群集生態学 ・生態系レベルでの生物の挙動を総合的に科学する景観生態学や環境生態学 <p>生態学を全体的に理解するために必要な基本概念についても総合的に解説する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	<p>現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていながら、地球の特徴を認識してもらおう。そのうえで、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学んでもらおう。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	<p>現在の地球を構成する物質と環境は、固体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という3つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	<p>宇宙、太陽活動と電磁圏、大気や海洋、生物と地球表層環境、地球惑星の物質科学や力学、地球や惑星の形成や進化をテーマとして講義を行う。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	宇宙科学概論	<p>高等学校での地学の履修率がほとんど0%に近いことを踏まえた上で、太陽地球系科学と宇宙に関する基礎的な概念を理解させることを目的とし、太陽地球系科学の最新の成果および天文学の基礎を学ぶ。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン思考	<p>デザイン思考は、これまでデザインの現場でデザイナーが問題発見や問題解決をする場合に行ってきた方法であり、それをデザイン以外の領域に適用可能とするための方法としてまとめられたものである。</p> <p>本講義では、デザイン思考の背景と合わせて、デザイン学やデザインのプロセスの理解を進める。そのために、概要及び様々なデザイン分野での実践や研究の結果及び具体的な方法の講義を行う。複数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅰ	<p>視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまな三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。</p> <p>本科目では、まず、図形の表現・解析の基礎である様々な投影法の概念、規則、および基本手法を解説し、次にグラフィックス、認識等への応用例を紹介する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	図形科学Ⅱ	<p>視覚情報の表示では、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。また、私たちを取り巻く大小さまざまな三次元の対象物（例えば機械や建築物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、グラフィック・リテラシーと呼ばれ、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。</p> <p>本科目を学ぶ目的は、これらの能力を身につける事にある。本科目では、図形科学の各種手法と、単面投影法の概念と規則について修得する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅰ	<p>図法の基礎理論を学んだ後、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現できることだろう。しかし、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と制作者の間の情報伝達手段として活用できる“図面”を作製する必要がある。本科目では、図面を理解し作製するために必要な基礎知識を、講義と実習を通じて修得する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	空間表現実習Ⅱ	<p>図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。</p> <p>工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	世界建築史概論	<p>世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深める。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	日本建築史概論	<p>日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	近・現代建築史	<p>産業革命以降の西洋の近代建築および都市の歴史について、20世紀の社会・芸術の形成に寄与した建築家の役割を中心に講義する。それに呼応し明治維新以降に西洋建築の移入、建築の近代化に貢献した日本の建築家たちについても言及する。さらに二度の世界大戦を経て変容、変質する建築・都市について、北欧を代表するアルヴァ・アアルト、南欧を代表するカルロ・スカルパ、アメリカを代表するルイ・カーン、あるいは日本を代表する丹下健三を中心に、都市の高層化、経済の高度成長など現代特有の問題との関連を通じて講義する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ること、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原則について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもたせ科学的に理解させることを目的に、情報科学の基本的な事項について講義する。具体的には、以下の項目から幾つかのトピックを選んで講義する。また、理解を定着させるために、ノートPC等を用いた実習を随時行う。 (A) 情報とは何か 1. 文字情報に比べ画像や動画が巨大になるのはなぜか？ 2. 文字化けはなぜ起きるか？ 3. 縁の下の力持ち1「圧縮」：情報を少ないコストで伝送／格納 4. 縁の下の力持ち2「自動誤り訂正」：情報を正確に伝送 5. 縁の下の力持ち3「暗号」：情報を安全に伝送 (B) 計算とは何か 1. コンピュータの動作原理 2. アルゴリズムの善し悪しがあなたの待ち時間を左右する 3. アプリケーションソフトウェアはなぜ時々固まってしまうのか？ 4. 実際のコンピュータはどのような仕組みか？ (C) 知能とは何か 1. 画像認識・文字認識・音声認識はどこが難しいか？ 2. 自動翻訳はどこが難しいか？ 3. 強い将棋プログラムの開発はどこが難しいのか？ (D) データサイエンス 1. アンケート 2. 検定・相関 3. ベクトル・距離・類似度 4. PCA・因子分析 5. 回帰・時系列 6. 画像 7. 可視化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原則について理解を深めさせることを目的とする。 1. プログラミング入門 2. 変数と型 3. 計算式 4. 算術関数 5. 配列（1次元配列） 6. 配列（多次元配列） 7. 条件分岐（条件判定と入れ子構造） 8. 条件分岐（複数方向分岐） 9. 繰り返し（定回反復） 10. 繰り返し（多重ループ） 11. 繰り返し（不定回反復） 12. 文字列処理関数 13. ユーザ定義関数 14. ファイル入出力 15. 総合演習	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウェアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータープログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験	<p>自然科学総合実験では、全理系学部に通じた内容で、物理学・化学・生物科学の各分野にわたる基礎的な下記6テーマの観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通じて実験の基本的手法を学ぶ。</p> <p>物理学Ⅰ－1 重力加速度の測定</p> <p>物理学Ⅰ－2 磁束密度の測定</p> <p>化学Ⅰ－1 炎色反応と原子スペクトル</p> <p>化学Ⅰ－2 金属イオンの系統分離</p> <p>生物科学Ⅰ－1 顕微鏡の使用法と動物組織の観察</p> <p>生物科学Ⅰ－2 植物細胞と気孔の開閉運動の観察</p>	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎科学実習	<p>基礎科学実習では、履修選択者に対して物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたる下記テーマの実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通じて実験の基本的手法を学ぶ。</p> <p>物理学Ⅱ－1 物理学実験</p> <p>地球科学Ⅱ－1 地球の形成と構成物質</p> <p>化学Ⅱ－1 アセチルサリチル酸の化学合成</p> <p>化学Ⅱ－2 ダニエル電池の起電力</p> <p>生物科学Ⅱ－1 アルコール代謝関連遺伝子の多型検出</p> <p>生物科学Ⅱ－2 植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅</p>	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	<p>インターネットやICT技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められている。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後ICT国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	<p>健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の修得を目指す。</p> <p>*アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースが開講されている。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅠA	<p>多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。</p> <p>なお、病気やけが、障害などの理由により、通常身体運動科学実習ⅠAの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅠB	<p>多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で修得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定される。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化することが期待される。身体運動科学実習ⅠBにおいては、ⅠAとは異なるコースを設置する。</p> <p>なお、病気やけが、障害などの理由により、通常身体運動科学実習ⅠBの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡA	<p>ライフスキルの更なる向上を目指すことを目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅡB	<p>運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢA	<p>生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅢB	<p>運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学修していく。</p>	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習ⅣA	<p>生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指す。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習IVB	生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学実習V	学外の施設等を利用して行う身体運動・スポーツ活動を通して、運動文化についての理解を深めるとともに、運動スキルおよびライフスキルの向上を目指す。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義A	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Aでは、主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義B	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について解説する。 健康・スポーツ科学講義Bでは、主として人文社会的観点（心理学、社会学、教育学、心理社会的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアI	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 (参考) 2020年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む 一モード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアII	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について語る。 (参考) 2020年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅠ	現在、多くの大学では「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されている。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、20年近い歴史を持っている。この科目では、九州大学の歴史と大学をめぐるいくつかの問題について考える。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まったが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、さらに、明治初期の福岡医学学校まで遡る。140年を超える伝統ある大学である。日本の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	九州大学は、大学そのものや多くの学部が地元の誘致運動や寄付金によってつくられるなど、歴史的に地域との深い結びつきをもっている。また、帝国大学のなかでは大陸にもっとも近かったことから、歴史的にアジアを中心とする国際交流も非常に盛んである。このように九州大学は地域社会や国際社会と深く関わりながら発展をとげてきた。この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考えていく。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅰ	九州大学は1911年（明治44）1月に創立された九州帝国大学から始まったが、それは1903年（明治36）4月に創設された京都帝国大学福岡医科大学を前身としている。最初から「帝国大学」として創設されたもので、この点が九州大学の大きな特徴になっている。この科目では、日本の高等教育制度史を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史を創設前史から第2次世界大戦期まで概説する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後の大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イコ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。労働や雇用の場、学びの場、また私生活における問題、そうした課題に対する女性の意識や行動の歴史、逆に男性の生き方の問題、さらに文化や表現と性差、あるいは、性差の論拠とされてきたが故に多くの問題を孕んでいる看護や医療、保健、福祉等の身体をめぐる社会的・政治的状況など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	日本事情	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通し、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われているが、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を授業で扱う。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、ボランティアの実践例や取り組み観点を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組み始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーをお呼びして、インターンシップの実践例や取り組み際の注意点等を紹介していただき、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことをねらいとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class, students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのかを学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討してみる。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in "Law in Everyday Life A", students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえ、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞をおこなう。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とします。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことをめざします。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技術の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本講義では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む現代社会において、多様な利用者・利用環境・利用状況を想定した「アクセシビリティ」の基礎を身につけることを目的とする。情報・時間・物理・経済・社会・心理・制度等に係るアクセシビリティを高める方策に関する基礎的知識の学習を通して、個人の多様性（視覚・聴覚・認知・言語コミュニケーション・運動機能）、生活とアクセシビリティとの関連、法整備とアクセシビリティについての理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える機会を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ授業である。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。実験科目のため、希望者が多い場合は受講者数を20名までとする。自然科学は「理系」のひとつだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ばれている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期であるが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学A	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学B	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と人類学や歴史学に関連した講義を予定している。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅠ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要な理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるⅡ」を合わせて履修し、諸問題の把握と分析をさらに学ぶことを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きるⅡ	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を考察する。「グローバル社会を生きるⅠ」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅰ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことと重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育Ⅱ	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それをふまえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うため、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」(test theory)と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性（倒産可能性）をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供する。 (1) 太陽系における水、(2) 地球表層での水の挙動、(3) 身近な水環境と資源としての水、(4) 水の基礎化学と生物との関わり など	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学 I	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的变化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグローバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学 I は、医療倫理学 II（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学 II	米国で発祥した患者の権利を基盤に規成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios (life、生命、生活) とラテン語 ethica (倫理)、ギリシャ語 (習性的、習俗的) を結びつけた合成語である。 1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。 本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者 I	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通して、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。	
基幹教育科目	総合科目	科学の進歩と女性科学者 II	『科学の進歩と女性科学者 II』では『科学の進歩と女性科学者 I』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑 I	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑 I」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかを学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合っており、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深めていく。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	体験的農業生産学入門	本授業では、作物（イネや園芸作物）や家畜（牛やニワトリ）などを対象に農業生産の実際を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境との関係や食物の安全性などについて学習し、社会における知識の役割を学ぶ。実習作業における創意工夫、対象作物や家畜への配慮、指導にあたる教職員や受講生相互の交流を通じ、実感としての知識を身につける。さらに、農業の持つ地域性と伝統や文化形成の関係について学習し、幅広く知識を身につけることの楽しさと重要性を学ぶ。夏休み期間中に農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町）において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して教示する。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリエンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気の観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を教示する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食料流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を概説するとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について解説する。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティA	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。今世の中でトレンドを形成している分野（データサイエンス、金融不正対策、Fintech、シリコンバレー情勢関連等）を中心にその分野とセキュリティがどのように関わり、顧客の安心・安全なサービスを提供しているかについて、企業の現場の事例を元にリアリティのある話題を提供する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティB	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉で解説する。実際に顧客に提供しているWebサービス（メディア、農林水産関連、ショッピング等）を中心にどのようなセキュリティの対策を行い、顧客の大切なデータを守りつつ使いやすいサービスを提供しているのかというテーマを中心に時事のトレンドも取り入れた話題を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習A	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。私たちが普段利用しているウェブに関する内容を中心に、基礎的なセキュリティの知識と技術を演習を通じて学ぶ。演習では、実際にサイバー攻撃を行う方法を体験し、攻撃の方法を把握した上で、どのようなセキュリティ対策を行っていけば良いのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習B	本講義では、セキュリティを考慮してエンジニアリングを行うことができる知識と技術と演習を通じて学習する。富士通株式会社の方々と共同で講義を行う。演習の教材は、富士通株式会社で社会人の研修に利用されているサイバーレンジの一部を演習として利用する。演習は、グループワーク形式で行い、各課題に対して、グループで議論しながら課題を解いていく。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習C	本講義では、セキュリティを考慮したエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。演習を通じて、セキュリティ分野の先端的な研究技術に触れながら、現在のセキュリティ分野でどのような課題があり、どのような解決案が考えられるのか議論していく。また、これらの先端技術が、社会にどのような可能性をもたらしてくれるのかを議論していく。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の9研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバルイゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留學生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることとを目的とする。留學生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることとを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	Japan in Global Society	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批判的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アイデア・ラボ I	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を提案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目	アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである (Drucker, 1993)。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学する I (軌跡編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。I (軌跡編) では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学する II (現在編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。II (現在編) では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	伊都キャンパスを科学する III (展望編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。III (展望編) では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門 A	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。先端技術入門 A では、主に電気電子工学分野、化学工学分野、応用化学分野、材料工学分野、機械工学分野を扱う。	
基幹教育科目	総合科目	先端技術入門 B	現代社会を支える最先端技術を紹介し、その技術の基盤となる学問分野の役割と重要性を学び、工学の多様性を理解する。先端技術入門 B では、主に情報学分野、土木工学分野、船舶海洋工学分野、地球資源工学分野、航空宇宙工学分野、量子物理工学分野、建築分野を扱う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史 A	古代ギリシャの自然学以降、近代科学が誕生するまでの過程を、その哲学的背景にも注目しながら講義する。近代科学誕生の背景にどのような時代的な変化や思想的な変化があることを知ることで、科学的思考において重要な点を明らかにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史 B	近代科学が生まれて以降の歴史、特に熱力学、量子力学、宇宙論の歴史について講義する。これらの講義の中で、現在、自然科学が抱えている哲学的問題点についても述べる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の基礎（哲学的考察）	科学的知識の正当化の問題、科学で用いられる因果、説明、法則などの概念の分析について講義する。科学批判が目的ではなく、科学的知識の正当性の難しさ、科学で用いられている概念の分析の難しさを知り、自明のものとして捉えてきたこれらの問題について問い直すことを学ぶ。また、量子力学の哲学や生物学の哲学についても、ごく簡単に触れる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。主に①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、などをテーマとする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原則、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を1つ1つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会 I	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会 II	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも思想・哲学・倫理の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文・社会科学の理論と方法を用いて、現代思想・現代正義論・応用倫理学の領域でホットな議論を呼んでいる社会問題を取り上げて講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。さて、本講義の科目名は「現代史」である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の一手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎—制度と経済	EU（欧州連合）は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことから政治学・経済学の観点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グローバル化とアジア経済	アジアにおけるグローバル化の影響について解説する。アジアの特定の地域についてトピックをとりあげながら、各地域のグローバル化への対応を説明していく。担当教員は、各アジア地域に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域の問題点や発展の方向性を把握している。アジアのグローバル化について、各地域の社会事情までを射程に入れた講義を予定している。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻繁に耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テキストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付けて欲しい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	観察という手法は科学的根拠や芸術的創造を生む重要な方法である。社会や人間に対するものづくりの感性・工学・科学のアプローチから、すべての学部に向けて演習も含め「観察」を講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	我々が住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 I	生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、この多様性を理解していく。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるだろう。 生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解してもらおう。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで、環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 II	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能 I では、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりや相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりや相互作用はそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化はつねに身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	漢方医学の思想、診断法、治療法や特徴を学ぶことにより、現代医学における漢方医学の重要性を理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施できるようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かすことを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質等に関する生命知識情報の解析に、パターン認識・機械学習法が積極的に導入されており、本講義ではそれらの数理的手法について学ぶ。また、遺伝情報解析や発現解析の理論を学び、実習を交えながらバイオインフォマティクスの基礎事項を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部門が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探究する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	数秒から数十億年の時間スケール、数ミクロンから数十億キロメートルの空間スケールにわたる多様な地球科学的現象を紹介しながら、46億年におよぶ地球の進化の歴史をひも解くとともに、人類存立の基盤である現在の地球環境について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につけさせる。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探究を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	東アジアの地域主義・地域統合を学びながら、政治・経済・社会の課題を検討する。授業の前半では、地域主義・地域統合の理論的背景、歴史的展開を考察する。授業の後半は事例研究で、個々の政策領域ごとにアジア共同体の課題と展望を見ていく。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にいかなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言える。本講義では、そのようなローマ法がいかにかに成立し、展開していったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法はローマ法の中心である私法からどのように分離していったのか、といったテーマについて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アジア共同体入門	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考 (Design Thinking) とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル (人間中心デザインに基いた製品開発手法) を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、「描きながら考える」ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	動的現象の科学	時々刻々とその状態や位置、状況や姿が変化する動的現象をどのように記述し、過去から現在へ、そして未来への変化を追跡する手法を修得する。自然現象におけるこれらの変化は、物体の運動に関する物理法則に支配されているものや、確率的な物理現象に基づくものであり、これらを支配している物理法則を微分方程式で正確に記述することができる。一方、人為的な要因が絡む社会現象や、複数の決定的な要因が複雑に作用して支配する現象は、それらを記述し理解するためには、モデル化と呼ばれる近似や仮定を導入する必要がある。この講義では、いろいろな変化を微分方程式で記述する手法を学修し、その解法を修得することによって、変化を遂げる物理現象の理解に迫る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは?」「医療倫理とは?」「薬とは何か?」「将来何を指すのか?」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下IC）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ICの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ICを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な事例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と事例（ケース）を通して学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論 I	本講義は事業創造デザイン特論 I、IIの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザイン I においては、事業創造デザインを進める上で必須となる知的財産権、研究契約等に関する基礎知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの2部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。 事業創造デザインⅡにおいては、実際に事業創造デザインに携わっている実務者をゲストスピーカーに招き、各ステージでの具体的な業務内容・事例紹介及び質疑を通じて、事業創造デザインに関する幅広い知識及び知見を習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	リスクマネジメント	環境リスク、災害リスクなどのリスク関連の言葉はよく耳にし、日常生活にも常にリスクが伴っている。リスクマネジメントは様々な分野で脚光を浴びており、意思決定を行う際は、その実施が求められている。本科目では、リスクとは何か、正確に評価できるか、低減策やコントロール方法などのマネジメント方法があるか等について考え、リスクアセスメントやリスクの低減に関する技術について講義を行う。グループ討論を通じ様々なテーマにおけるリスク評価を行い、リスクマネジメント方法を提案できるようになることを目標にしている。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	変化の激しいグローバル時代を生き抜くため、社会に出る前に組織やビジネスの本質、今後の動向を理解することは非常に重要といえる。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、日本国内や海外のビジネス現場で活躍している実務者の様々な視点やビジネスに対する考え方や経験を学ぶ。特に「新事業開発、研究開発、マーケティング等」の内容にフォーカスし、アントレプレナーによる新事業開発の理念とビジネス展開について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	九州大学の学生の多くは卒業後、主に企業、研究所や公的機関等に就職する。従って、大学在学中に、組織の仕組みやビジネスについて学ぶ必要性が高いと言える。本講義では、会社やビジネスの本質について概観し、多様なビジネス現場で活躍している実務者の「人事、マーケティング、ブランディング、研究開発」などの広い視点から、「会社とは何か」について考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学A	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）などについて講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学B	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方について解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅠA	量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅠB	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。 具体的には、統計的検定の理論、クロス集計表に関する分析、2群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡA	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する科目。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析など）を紹介し、実際に演習をおこなう。 社会学における「社会」のとらえ方と、質的／量的社会調査法について概説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡB	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法（フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフヒストリー分析など）を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。 社会調査法ⅡBでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフヒストリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説していくこととする。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていくこととする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論（教育・学校心理学）	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本という社会の最高法規であり続けている「日本国憲法」について、ここ数年、その改正も含めて様々な議論が展開されている。この講義では、日本国憲法をめぐる多様な問題についてわかりやすく解説を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	工学部共通科目	工学倫理	工学系人材には、技術革新や地球規模の諸問題等に対し工学的側面から貢献することが求められる一方で、想定されるリスクを回避し安全安心な環境創出に努めることも求められる。本講義では、PL法などの法律を学ぶとともに、工学系人材が身につけておくべき倫理観を修得する。	
専攻教育科目	工学部共通科目	データサイエンス序論	工学をはじめあらゆる学術分野では、様々なデータを解析し、そこから客観的で再現性のある知見を得ることが必須となっている。本講義では、データ解析の事例をはじめ、そこで使われている数学・情報学関連の諸技術の基礎、ならびにデータ収集の方法について修得する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目 建築概論	<p>(概要)</p> <p>建築学は建築に関わるさまざまな知識を統合する総合学問である。本講義は、建築計画、建築構造、建築環境、都市防災、都市計画の側面から建築を考える建築学初学者のための導入科目である。本講義では建築学の全体系を理解するために、関連する人類の文化、歴史、社会の総合的な基礎知識を修得し、現代社会と建築の関係性や地球環境問題に関する幅広い理解を通して、建築・都市において取り組むべき課題を考究する。</p> <p>(オムニバス方式 全16回)</p> <p>(15 鶴崎 直樹／1回) 地域再生デザイン学 (3 趙 世晨／1回) 都市計画学 (7 黒瀬 武史／1回) 都市設計学 (2 神野 達夫／1回) 都市環境リスク学 (14 清家 規／1回) 災害情報管理学 (1 尾崎 明仁／1回) 健康建築環境学 (8 古賀 靖子／1回) 建築照明学 (13 住吉 大輔／1回) 持続建築エネルギー学 (5 堀 賀貴／1回) 建築史学 (12 末廣 香織／1回) 建築意匠論 (11 志賀 勉／1回) 持続居住計画学 (4 蛭川 利彦／1回) 建築生産学 (16 松尾 真太郎／1回) 持続型耐震構造学 (10 佐藤 利昭／1回) 木質構造学 (6 山口 謙太郎／1回) 循環建築構造学 (9 小山 智幸／1回) 建築材料学</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目 特別プログラム	本授業は、教員が設定したカリキュラムや課題に取り組む一般の講義科目と異なり、学生自ら建築・都市について主体的に学ぶ機会を提供することを目的としている。AIの進化や人口減少に代表されるように、建築・都市を取り巻く社会は大きく変化しており、本授業では「自ら目標を設定し学ぶ力」を涵養する。また、建築は非常に多岐にわたる分野から構成されており、4年生以降の進路や将来の職業を考える契機となることを期待している。履修学生は、短期留学型、インターンシップ型、スタジオ型、自由研究型の履修プログラムの中から1つを選択する。	講義／演習6時間 実習18時間
専攻教育科目	学科専攻科目	総合科目 情報処理概論	実務や研究で使用できるコンピューターの技術、およびプログラミングの基本の習得を目的とする。講義資料に従って実際の操作内容やコードを教授する。また、パソコンの操作方法とプログラミングを習得するために毎回レポート課題を示す。受講者は各自パソコンを操作しながら、授業内容を習得し、授業の中でレポートを作成する。	講義16時間 演習8時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目 総合科目	建築学研究序説	<p>(概要) 建築学は非常に幅広い専門分野を包含するため、多様な建築学の各専門分野に対して、自己の適性を見極め、進路を決定することは必ずしも容易でない。本授業では、ゼミナール形式の授業を通して、各専門分野の先端的な研究情報を提供し、建築学研究、就職、進学時における進路判断の機会を与える。また、大人数の授業では困難な、より専門的な事項の分かりやすい解説、質疑応答と討議を行う。受講生は、先端的な研究と最新の専門分野のトピックスや、各研究室で精力的に進めている研究内容を題材として、建築学関連研究の一端をかいま見ることができる。受講者は、各教員によるオムニバス方式の授業を受けた後、各研究室で並行して開講されるゼミナールの中から、1つ以上を選択する。</p> <p>(オムニバス方式 全16回) (5 堀 賀貴/0.5回) 建築史学 (1 尾崎 明仁/0.5回) 健康建築環境学 (3 趙 世晨/0.5回) 都市計画学 (4 蛭川 利彦/0.5回) 建築生産学 (2 神野 達夫/0.5回) 都市環境リスク学 (6 山口 謙太郎/0.5回) 循環建築構造学 (8 古賀 靖子/0.5回) 建築照明学 (12 末廣 香織/0.5回) 建築意匠論 (11 志賀 勉/0.5回) 持続居住計画学 (13 住吉 大輔/0.5回) 持続建築エネルギー学 (7 黒瀬 武史/0.5回) 都市設計学 (9 小山 智幸/0.5回) 建築材料学 (14 清家 規/0.5回) 災害情報管理学 (16 松尾 真太郎/0.5回) 持続型耐震構造学 (10 佐藤 利昭/0.5回) 木質構造学 (17 木島 孝之/0.5回) 建築史学 (19 志波 文彦/0.5回) 建築計画学 (21 箕浦 永子/0.5回) 都市史学 (18 重藤 迪子/0.5回) 地震工学 (20 南部 恭広/0.5回) 木質構造学 (5 堀 賀貴、1 尾崎 明仁、3 趙 世晨、4 蛭川 利彦、2 神野 達夫、6 山口 謙太郎、8 古賀 靖子、12 末廣 香織、11 志賀 勉、13 住吉 大輔、7 黒瀬 武史、9 小山 智幸、14 清家 規、16 松尾 真太郎、10 佐藤 利昭/6回) 各研究室で実施するゼミナール</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
専攻教育科目	学科専攻科目 法規科目	建築法規	わが国の建築行政と建築関連法規の体系を理解し、社会現場において建築物の設計・監理の法規的対応ができるよう、建築関連法規の基礎を学ぶための授業である。	
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築設計基礎演習A	建築設計のために表現技術を学ぶ演習科目であり、家具などの作品分析を通してデザインされたものにおける機能性と美学の関係を理解する。スケッチ・手描き図面・写真などを用いて、2次元・3次元表現の基礎技術を習得する。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築設計基礎演習B	建築設計のために造形と単位空間を学ぶ演習科目であり、与えられた素材を用いて、造形物としての単位空間をグループでデザインし、実際に制作する。ものづくりの過程で、材料の特性やものの成り立ちを理解し、創造性を養う。また、グループ作業を通してリーダーシップや役割分担、段取りを学ぶ。	共同
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築設計基礎演習C	建築設計における企画設計・業務を学ぶ演習科目であり、標準的な敷地と簡易なプログラムを設定した業務系施設の設計課題を解く。CAD等を用いた基礎的な製図技術と基本的な設計手法を習得し、建築におけるスケール感を身につける。最終的には企画設計レベルの図面一式を作成する。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習D	生活空間を対象に、建築設計におけるコンセプトの立て方を学ぶ演習科目であり、具体的な敷地に対して独立住宅を設計する。具体的な居住者像とテーマを設定し、コンセプトの立て方、建築形態の作り方を学ぶ。最終的にはコンセプトを表現する企画資料、空間のイメージを表現するパース、模型を制作する。	共同
専攻教育科目	設計・実験演習科目	建築設計基礎演習E	建築設計における実施設計を学ぶ演習科目であり、建築に用いる材料と構法を理解した上で、建築の計画、環境、構造の各技術を総合し、実施設計の初期レベルの図面と資料一式を作成する。また、既存施設を題材としてコンバージョンの手法を学ぶ。	共同
専攻教育科目	設計・実験演習科目	都市・建築設計演習A	教育系施設を対象に、都市・建築設計のプログラムを学ぶ演習科目であり、学校や図書館などの教育系施設に関して、現代の社会状況を反映した企画案を作成する。事例の調査分析と課題抽出を行い、それに基づいてプログラムを組み、分かりやすく説得力のある企画提案書を作成する。	共同
専攻教育科目	設計・実験演習科目	都市・建築設計演習B	コミュニティと生活空間を対象に都市・建築設計を学ぶ演習科目であり、コミュニケーションを意識した生活空間を持つ建築を設計する。現代社会の課題に寄り添いながら、コミュニティの核となる建築のイメージを作り上げる。コンセプトの立て方、空間構成の手法、場の作り方を学ぶ。	共同
専攻教育科目	設計・実験演習科目	都市・建築設計演習C	まちづくりの観点から都市・建築設計を学ぶ演習科目であり、設計対象エリアの現況や歴史などを調査し、地区再生や都市デザインに関連した企画設計案を作る。建築単体ではなく、より広い視野で建築と都市の関係を理解し、「ものづくり」だけでなく「ことづくり」を含む提案を考える。	共同
専攻教育科目	設計・実験演習科目	都市・建築設計演習D	教員が自由に設定した複数のスタジオから、履修学生が自身の関心に応じて1つのスタジオを選択する。大学院人間環境学府修士課程の設計演習科目と共同の授業であり、大学院生と共同で課題に取り組む。スタジオの課題内容は、芸術・歴史、形態操作、社会的課題、まちづくり、構造デザイン、環境デザイン、3Dテクノロジーなど、多様なテーマや手法を含む。	共同
専攻教育科目	設計・実験演習科目	建築環境設備実験演習	<p>(概要)</p> <p>建築環境学および建築設備学に関する演習と実験であり、建築環境設備基礎A・B、建築環境設備応用A・B、建築環境デザインで学習した知識と技術を、演習と実験を通してより深く理解し、環境設計・設備設計へ応用する手法と技術を習得することを目標とする。</p> <p>実験では、計画の立案、準備、実施、結果の分析を通して、計画立案の方法、センサーの種類や取り扱い、測定結果に含まれる誤差、結果のまとめ方や見せ方、レポートの作成方法などについて学ぶ。机上演習では、設備設計の手法やさまざまな環境要素に関する計算方法を習得し、環境設計に必要な技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全45回)</p> <p>(8 古賀 靖子 / 15回)</p> <p>レポートの書き方、太陽位置と日影の計算、照明計算、屋内光環境測定と評価</p> <p>(13 住吉 大輔 / 30回)</p> <p>レポートの書き方、建築エネルギー評価プログラム、空調負荷計算と空調設備計画、道路交通騒音測定、熱流の測定、室内環境の測定</p>	オムニバス方式 講義17.5時間 演習18時間 実験32時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築環境設備設計演習	<p>(概要) 建築環境デザインの演習であり、建築に関する総合的な視点から、建築環境デザインのための基本的な考え方や手法を習得する。設計課題について光環境、音環境、熱・空気環境、空調設備等の要件と各性能の目標を設定し、それらを満足する省エネルギーで快適な建築空間を実現するための計画と設計を行う。また、提案内容を第三者に的確に伝達するプレゼンテーション技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) 全45回)</p> <p>(1 尾崎 明仁、8 古賀 靖子、13 住吉 大輔/36回) 温熱・空気環境、光環境、建築設備とエネルギーに関する建築環境設計 (1 尾崎 明仁、8 古賀 靖子、13 住吉 大輔、378 伊藤 隆宏、382 梶 弘之/3回) 講評 (378 伊藤 隆宏、8 古賀 靖子/3回) 建築計画とプレゼンテーション技術 (382 梶 弘之、13 住吉 大輔/3回) 建築設備の設計と実務</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築構造材料実験演習	<p>(概要) 建築構造材料に関する講義および演習で、以下の項目の達成を目標に、各種材料の材料試験、測量演習、梁の曲げ実験や建設現場の見学を行う。</p> <p>(1) 建築構造材料に要求される性能、およびそれを評価する材料試験の方法、ならびに規格に適するか否かの判定方法を、実習を通じて修得する。</p> <p>(2) 建築物に要求される構造性能、耐久性能、居住性能を保持するための材料設計を行う能力を身につけて、持続可能な建築の「構造」を形づくる能力を涵養する。</p> <p>(3) 測定における「正確さ」と「精密さ」、精度、有効数字などに関する基礎知識を、実習を通じて修得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) 全45回)</p> <p>(6 山口 謙太郎/6回) RC 構造部材の曲げ実験 (9 小山 智幸/21回) 測量、現場見学、骨材・コンクリートの調合と材料試験 (10 佐藤 利昭/6回) 木材のクリープ実験 (18 重藤 迪子/3回) 常時微動計測 (20 南部 恭広/6回) 鋼材の材料実験 (6 山口 謙太郎、9 小山 智幸、10 佐藤 利昭、18 重藤 迪子、20 南部 恭広/3回) レポート指導、講評</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築構造設計演習 A	<p>(概要) 中規模の鉄骨造建築および鉄筋コンクリート造建築、木造住宅を対象とした設計課題を通じて、「建築構法」・「木質構造」・「鉄骨構造」・「鉄筋コンクリート構造」で学習した設計手法を利用した構造設計演習、構造種別横断型の建築構造計画に関する演習、ならびに建築構造物を構造種別によらず小規模なものから大規模なものまで幅広く対象として構造的な特徴を調査・分析する構造分析演習を行い、以下に掲げる項目の達成を目標としている。</p> <p>(1) 建築の成り立ちを力学的に理解し、建築に力学を応用できる分析力と企画力を修得する。</p> <p>(2) 建築物に要求される耐震性能と居住性能を保持するための構造設計を行う能力を身につけて、安全な建築の「構造」を形づくる能力を涵養する。</p> <p>建築構造設計演習 A では、鉄骨構造および鉄筋コンクリート構造の構造設計演習を対象範囲とする。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) 全22回)</p> <p>(6 山口 謙太郎/7回) 鉄筋コンクリート構造の構造設計 (16 松尾 真太郎/13回) 鉄骨構造の構造設計 (6 山口 謙太郎、16 松尾 真太郎/1回) 構造比較、ピアレビュー (6 山口 謙太郎、16 松尾 真太郎/1回) 講評会</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目 設計・実験演習科目	建築構造設計演習 B	<p>(概要) 中規模の鉄骨造建築および鉄筋コンクリート造建築、木造住宅を対象とした設計課題を通じて、「建築構法」・「鉄骨系建築構造 (S造)」・「コンクリート系建築構造 (RC造)」で学習した設計手法を利用した構造設計演習、構造種別横断型の建築構造計画に関する演習、ならびに建築構造物を構造種別によらず小規模なものから大規模なものまで幅広く対象として構造的な特徴を調査・分析する構造分析演習を行い、以下に掲げる項目の達成を目標としている。 (1) 建築の成り立ちを力学的に理解し、建築に力学を応用できる分析力と企画力を修得する。 (2) 建築物に要求される耐震性能と居住性能を保持するための構造設計を行う能力を身につけて、安全な建築の「構造」を形づくる能力を涵養する。 建築構造設計演習 B では、木質構造の構造設計演習、構造計画演習、構造分析演習を対象範囲とする。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) 全 2 2 回)</p> <p>(10 佐藤 利昭 / 6 回) 木質構造の構造設計 (4 蛭川 利彦、20 南部 恭宏 / 5 回) 構造計画 (10 佐藤 利昭、4 蛭川 利彦、20 南部 恭宏 / 1 0 回) 構造分析 (10 佐藤 利昭、4 蛭川 利彦、20 南部 恭宏 / 1 回) 講評会</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	建築設計計画 A	人間の生活・行動・意識と空間との対応関係を基に建築空間を構想するための基礎知識として、建築計画の役割、人間の知覚と行動、単位空間のスケール、人の行動と場所のデザイン、空間の機能と動線に関する基本的事項を解説する。	
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	建築設計計画 B	<p>建築の設計計画に関する以下のテーマについて、社会、経済、技術、美学などとの関連の中で位置づけながら講じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築を含む視覚芸術の歴史的な発展過程 2. 形の持つ論理とデザインの意味 3. 架構と構法の美学、素材とディテール、空間の特性と意味 <p>3. 建築設計の現場から - 建築家という仕事 - 設計手法と思考方法 - 合意形成の方法と社会的評価</p> <p>授業は、講義だけでなく、映画やワークショップも交えながら進める。</p>	
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	建築設計計画 C	本講義では図書館と美術館を中心に、施設規模とプログラムの設定方法、ゾーニングの考え方と機能の整理、空間のスケールと断面設定、施設種別による計画手法のポイントを中心に講述することで、建築計画の手法についての理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	建築設計計画 D	本講義では学校とホテルを中心に、施設規模とプログラムの設定方法、ゾーニングの考え方と機能の整理、空間のスケールと断面設定、施設種別による計画手法のポイントを中心に講述することで、建築計画の手法についての理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	建築設計計画 E	実際の建築物を建てる際には基本計画や基本設計とともに、より詳細な情報を表現する実施設計および実施設計図面が必要となる。そこで本講義では実施設計に関する専門的知識の提供や具体的な建物の空間や部位の実施設計図面の読み取り等を通じて、実施設計図面の表現要素、内容および方法等について理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	住環境計画論	都市居住に関する諸問題を地域の文脈や制度を踏まえて理解し、快適な居住環境づくりに貢献する知識や技術の応用力を養う。本授業では、居住地の住環境改善・保全に関する理論・方法・プロセスについて、各種の事例を紹介しつつ講述する。	
専攻教育科目	学科専攻科目 建築計画科目	居住文化論	人間の居住によって生まれてきた文化を、その歴史的経緯とそれを成り立たせている社会的背景を踏まえて解説する。建築から集落まで幅広いスケールの居住文化を解説し、具体的には古代の住まいと都城、近世の住宅と城下町、町家、農村住宅、集落等を取り扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 都市計画概論	都市設計（アーバンデザイン）に関する基礎的な内容を体系的に取り上げる。都市設計においては、都市空間を構成する各要素の関係性を理解し、区画、街区、地区、都市、都市圏など様々なスケールで都市を捉えることが重要となる。都市デザインは、人間の生活を中心に据えた物的環境の再統合であり、同時に都市空間で発生する様々な活動（非物的環境）と都市空間との融合を目指すものである。本講義では、都市デザインの歴史的な発展を理解し、各時代の計画意図が重なり合った都市を読み解く能力を身に着けるとともに、近年の社会的な変化に対応した新しい都市デザインのあり方についても議論する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 都市設計概論	都市設計（アーバンデザイン）に関する基礎的な内容を体系的に取り上げる。都市設計においては、都市空間を構成する各要素（私空間 公共空間、 建造物 街路 オープンスペース）の関係性を理解し、区画、街区、地区、都市、都市圏など様々なスケールで都市を捉えることが重要となる。都市デザインは、人間の生活を中心に据えた物的環境の再統合であり、同時に都市空間で発生する様々な活動（非物的環境）と都市空間との融合を目指すものである。本講義では、都市デザインの歴史的な発展を理解し、各時代の計画意図が重なり合った都市を読み解く能力を身に着けるとともに、近年の社会的な変化に対応した新しい都市デザインのあり方についても議論する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 ハウジング論	現代日本の多様な住居のあり方を紹介するとともに、それぞれの歴史的経緯とそれを成り立たせている社会的背景を解説する。具体的には、住戸計画の理念と実践、現代の都市住宅、欧米における住宅地計画の理論、日本における集合住宅計画の流れ、コーポラティブ住宅等を取り扱う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 まちづくり概論	<p>(概要)</p> <p>都市計画や建築計画の分野で重要となりつつある「まちづくり」について総論的に取り扱い、地域社会との対話のなかで都市・建築の専門家として果たすべき役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(5 堀 賀貴 / 1回)</p> <p>歴史的街並み、伝統的文化財を活用したまちづくりのあり方を講じる。</p> <p>(11 志賀 勉 / 2回)</p> <p>住宅地（戸建て、集合住宅）における住民参加によるまちづくりのあり方を講じる。</p> <p>(15 鶴崎 直樹 / 2回)</p> <p>大学がまちづくりの主体として関わり、新たなまちの創出や再生を実現した事例を通じてまちづくりにおける大学の役割や貢献の可能性等について講じる。</p> <p>(7 黒瀬 武史 / 2回)</p> <p>交通事業者や民間の開発事業者と連携した都心部のまちづくりとマネジメントのあり方を講じる。</p> <p>(21 箕浦 永子 / 1回)</p> <p>歴史的な市街地におけるまちづくりを、住民参加、歴史的な市街地の保全と再生の観点から講じる。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 景観設計	都市・建築の具体的なケーススタディを通じて、景観設計の理論と方法を修得する。具体的には、概論、視点場、視対象、指標、景観の構図、文化的景観、色彩、プロポーシオン、具体的な景観論争について取り扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 都市再生	<p>(概要) 近年の都市計画および都市デザインにおける重要課題である「都市再生」に焦点を当て、国内外の実例を通じて都市再生の領域や役割について学ぶとともに、個別事例の検証により都市再生の理念とそれを実現するプロセスや技術、手法および法制度等の専門的知識の獲得と理解を深める。また、事例の比較により、それらの特徴や問題点を把握し、今後の都市再生のあり方について考察する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(15 鶴崎 直樹／5回) 都市再生に関する体系的な知識・制度について、国内外の幅広い事例を挙げて講じる。 (7 黒瀬 武史／3回) 民間事業者による都市再生について、特に国内の具体的な事例を挙げて講じる。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 都市解析	都市計画分野において、計画立案や将来予測に不可欠な分野である都市解析を総論的に取り扱う。具体的には、都市解析において必要となる都市情報の収集、統計的手法を用いた解析、地理情報システム (GIS) の活用等について講義を行う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	都市計画科目 空間メディア	都市計画・都市デザイン分野におけるコンピューターやマルチメディア技術の活用手法と、これらの技術が本分野に果たす役割と意義について、今日の都市問題をテーマとした講義を行う。	
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目 世界建築史詳論	<p>(概要) 建築学を学ぶ上で重要な専門的知識である世界の建築について詳しく学ぶ講義であり、芸術、自然科学の成り立ちや文化・社会的背景、あるいは地理的・政治的環境との関係性において建築・都市を構成する多様な要素を総合的かつ具体的に解説する。「語り」としての建築が「純粋芸術」として理論づけられ、「政治」や「都市」と結びつきながら普遍化し、新しく「宗教」と深く結びつき、技芸としての「構造」を発展させ、やがて「人間性」に帰着する経過を詳しく理解する。さらに、現代社会における建築・都市の役割あるいは存在、あるいは「建築家」として社会に関わっていく意義について、歴史的文脈の上で語ることでできる能力の習得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(5 堀 賀貴／7回) 西洋建築史 (21 箕浦 永子／1回) 東洋建築史 (宗教の伝播と建築の変容)</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目 日本建築史詳論	日本建築に限らず建築が社会の産物である限り、建築を分析・理解するには、至極当然ながら、建築と社会構造(政治、経済、軍事等)・風土・文化との関わりを踏まえた考察、つまり、社会史の観点に立った思考が必要である。ここでは、日本建築の技術・意匠・形態について、表層的な編年だけではなく、その構造や変遷の史的意味を社会史の観点から捉える能力を学習する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目 現代建築デザイン	1970年代以降の現代建築デザインの流れについて、社会、経済、国際関係といった背景から解説する。また、事例を題材にしながら、建築の設計手法や建築家の姿勢や取り組み、建築作品の持つ社会的意義について解説する。講義だけでなく、グループワークなども交えながら学生自ら調査、考察、議論を進めることで、建築思潮の流れや、建築デザインが持つ論理性、建築家の仕事の意味についてより深く理解する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	歴史・意匠科目 都市史	<p>(概要) 西洋および日本の都市および都市住宅の発生、形成およびその構造について、文化、社会、経済などの面から歴史的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(5 堀 賀貴／6回) 西洋都市・住宅史 (21 箕浦 永子／2回) アジア・日本の都市・建築史</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目 環境科目	建築環境設備基礎A	<p>(概要) 建築環境学(光・音・温熱環境)の基礎を学ぶ講義であり、自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(1 尾崎 明仁/4回) 建築環境設備概論、熱移動の基本プロセス、壁体の熱貫流、日射 (8 古賀 靖子/4回) 視覚の基礎、測光・測色の基礎、明視論</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 環境科目	建築環境設備基礎B	<p>(概要) 物理音響と建築設備の基礎を学ぶ講義であり、自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(1 尾崎 明仁/2回) 物理音響の基礎 (13 住吉 大輔/6回) 建築デザインと環境設備、空気調和設備計画、熱源設備、熱搬送設</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 環境科目	建築環境設備応用A	<p>(概要) 建築温熱環境と設備に関連する自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(1 尾崎 明仁/4回) 湿り空気、空気線図、壁体の温湿度分布、表面結露と内部結露 (13 住吉 大輔/4回) 最大負荷計算、空調機的设计</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 環境科目	建築環境設備応用B	<p>(概要) 建築照明と建築音響に関連する自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(8 古賀 靖子/6回) 照明の質と照明環境性能、人工光源と照明設備、建築色彩計画 (13 住吉 大輔/2回) 建築の音響性能評価、室内音響</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 環境科目	建築環境デザイン	<p>(概要) 建築環境学および建築設備学に関する講義であり、自然科学や人文・社会科学の幅広い基礎知識を身につけ、都市・建築環境の物理現象とメカニズムを理解して、環境を構成する多様な要素を定量的に把握・分析・評価・制御する方法論を学び、地域の環境特性やライフサイクルの観点から、持続・共生型の快適で低環境負荷な都市・建築環境を創造するためのシステム構築及びマネジメント手法に関する知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(1 尾崎 明仁/4回) 室内空気質、換気 (8 古賀 靖子/7回) 吸音と遮音、照明設計と照明計算 (13 住吉 大輔/4回) 温熱環境の評価基準、給水・給湯設備、排水設備、衛生設備</p>	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築構造力学基礎	建築構造力学の概要について講義すると共に、その基礎となるニュートン力学、構造物のモデル化、力の釣り合いに基づく構造物の支点反力や部材断面力の算定法に関する講義を行う。 自然の摂理や数理の面から建築の構造を理解し、安全な建築の「構造」を形づくる力を養うための第一歩として、建築構造力学の基礎知識を習得する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	静定建築構造力学	構造設計では、仮定する外力に対して、経済性や種々の要望を基に合理的な部材断面を決定することになる。本講義は、これら部材断面の性能を表す基本量となる断面性能を理解し、それを用いた特定の外力下における、部材に生じる応力や構造物の変形を求める知識を習得することを目的とする。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築材料	建物を構成する要素として不可欠である建築材料の物理的あるいは化学的な性質を体系化し、各種材料が持つ特徴を生かしてこれらを適材適所を使用する方法について講義する。受講生は、建築物に要求される居住性能、耐久性能、および構造性能を発揮するための材料を選択できる能力、地域特有の材料について理解することができる能力、ならびに構造物の耐久診断と対策の立案ができる能力を身につける。具体的には、材料設計を行うための知識と方法、建築の構成材料、構法、施工法を選択でき、その合理性を説明し、具体的な生産に関する知識と技術を身につける。また、材料の3R (Recycle、Re-use、Reduce) の考え方を理解する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	建築構法	(概要) 建築物にどのような性能が必要で、どのようなものから構成され、どのようにできているかについて、主として空間をかたち造る構造材料と構造形式に軸足を置いて解説する。 (オムニバス方式 全15回) (4 蛭川 利彦/9回) 基本事項、構造材料・種別の特徴 (2 神野 達夫/1回) 基礎構造 (6 山口 謙太郎/2回) 鉄筋コンクリート構造 (16 松尾 真太郎/2回) 鉄骨構造 (10 佐藤 利昭/1回) 木質構造	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	木質構造	木質構造は、木造住宅に代表されるように、身近にある構造種別である。本講義は、木質構造に関する基礎知識の習得を目的としたもので、木材・木質材料の力学的な性質から木質構造の造られ方、壊れ方などを学ぶものである。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	鉄骨構造	我が国の建築物の着工床面積の3分の1は鉄骨構造であり、鉄骨構造は低層の住宅や工場、高層のホテルやオフィス、スポーツやイベントのための大空間構造など、幅広い用途に用いられている。鉄骨構造を理解し設計するためには、使用する鉄鋼材料の性質に始まり、部材(梁・柱など)の力学的特性、それらを接合する技術と構造性能、さらにはそれらを統合した鉄骨造骨組の力学性状を理解する必要がある。 本授業では、鉄骨構造による種々の建物の力学的特性を理解し、居住性や耐震性を確保するための構造設計の考え方について学習する。	
専攻教育科目	学科専攻科目	構造科目	鉄筋コンクリート構造	(概要) 鉄筋コンクリート構造の特徴を理解させた上で、主要構造部材の力学的性状とその設計法を概説する。 全体の教育目標:鉄筋コンクリート構造の主要構造部材における、外力に対する抵抗機構を理解させ、これらに要求される性能確保のための方法を習得させる。 個別の学習目標:鉄筋コンクリート構造建物が外力を受けると、その構成部材に断面力が生じる。この大きさの算定や評価法を学び、断面力に対する適切な部材設計の手法を理解する。 (オムニバス方式 全15回) (9 小山 智幸/2回) 基本方針、許容応力度の考え方 (322 吉岡 智和/13回) 部材設計、保有耐力、終局耐力	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築施工	建築生産に係ることを全般的に取り上げる。具体的には、建築生産を取り巻く制度、建築生産現場の実状、施工計画・施工管理の手法、各種工事の標準的な実施方法（流れと工事方法）の概要について解説する。授業計画に沿って講義を行う。図・写真を用いて視覚的に解説を行ない、適宜、講義資料を配布する。	
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	不静定建築構造力学	不静定構造物の応力解析について、仮想仕事法を中心とした応力法とたわみ角法、固定モーメント法を中心とした変位法に関する講義を行う。	
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築振動学	建築構造物の耐震安全性を評価には建物の地震応答解析が必要となる。本授業により、現行の建物の耐震設計用地震応答解析の基礎理論を習得させる。 (2 神野 達夫) 建築物の振動に関わる基礎理論に関する講義 (18 重藤 迪子) 建築物の振動に関わる基礎理論に関する演習	共同 講義12時間 演習10.5時間
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築構造設計技法A	これまでに学習してきた静定建築構造力学の基本的な知識および考え方を、演習を通じて再確認し、今後の構造系科目（各種構造、構造設計他）のための基礎力を身につける。建築構造設計技法Aでは、静定建築構造を対象範囲とする。	共同 講義6時間 演習6時間
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築構造設計技法B	これまでに学習してきた不静定建築構造力学の基本的な知識および考え方を、演習を通じて再確認し、今後の構造系科目（各種構造、構造設計他）のための基礎力を身につける。建築構造設計技法Bでは、静定建築構造を対象範囲とする。	共同 講義6時間 演習6時間
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築荷重論	(概要) 建築物の構造設計を適切に行うためには、建築物と外力の関係を理解し、建築物に作用する荷重や外力を適切に把握することが重要である。本講義では、建築物の構造設計を行う際に必要となる各種設計荷重を生じさせる現象に関する基礎知識をはじめ、各荷重の内容、特性、ならびにその計算方法について解説する。さらに、具体的な事例を用いた演習を通して、その理解をより深め、設計荷重の算定を行う上で必要な知識ならびに技能を習得させる。 (オムニバス方式 全15回) (2 神野 達夫/5回) 長期・短期荷重、確率・統計、再現期間 (14 清家 規/3回) 地震荷重 (18 重藤 迪子/7回) 各種荷重算定演習	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築防災	(概要) わが国は、地震や台風の発生頻度が高く、これまでに甚大な災害に見舞われてきた。本講義では、建築物に関わる自然災害や火災の状況、発生要因、防災・減災対策の概要について講義を行う。講義は大きく3部で構成され、第1部（第2回～第8回）では、個別の災害の状況や発生要因、防災・減災対策について、第2部（第9回～第12回）では、通常時、発災直後、応急対応期と時間経過に伴って変化する災害現場の問題について扱う。第3部（第13回～第14回）では、第1部と第2部の内容を踏まえ、都市で発生した甚大災害の具体的事例を通して、都市における防災・減災対策について学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (4 蟻川 利彦/4回) 災害全般、火災、日常安全性 (2 神野 達夫/6回) 防災対策、地震被害 (10 佐藤 利昭/1回) 火災 (18 重藤 迪子/2回) 地震災害 (4 蟻川 利彦、2 神野 達夫、10 佐藤 利昭、18 重藤 迪子/2回) グループディスカッション	オムニバス方式 共同（一部）
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	合成構造	合成構造のありようについて講義する。日本で用いられる代表的な鋼・コンクリート合成構造の設計手法と施工方法について概説し、力学的性質が異なる二つの材料で構成された部材の力学的性質の評価方法について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築土質力学	建築物を支えているのは言うまでもなく地盤であり、地盤、つまり土の性質を理解することは健全な建築物の建設にとって不可欠である。本講義では、建築物を支える地盤の物理的・力学的性質ならびに水理学的性質について解説する。	
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	空間構造計画	(概要) 建築物における構造計画の概要について解説する。建築物に用いられている構造種別には、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鋼・コンクリート合成構造、木質構造などがある。これらの構造種別に応じた各構法の特徴を理解し、適切な構造計画を立てるために必要な基礎能力を育むことを目標とする。 (オムニバス方式 全15回) (4 蛭川 利彦/5回) 免震構造、制振構造 (6 山口 謙太郎/1回) 組積造 (9 小山 智幸/1回) 耐久性設計 (10 佐藤 利昭/1回) 木質ラーメン・シェル構造 (377 石出 一郎/3回) 実施物件を事例とした構造計画 (389 西村 章/4回) 実施物件を事例とした施工・監理計画	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	基礎構造	建築構造物はその使用目的を安定的に果たすためには、構造物の自重のほか、構造物利用者の重量や収納している家財道具や機械などの積載重量、そして自然現象に伴う外力などの各種荷重に対して十分な強度や変形性能を有するように設計・施工する必要がある。これらの設計荷重は構造物自身で受け止めたのち、基礎を介して地盤へと伝えられることになる。したがって、最終的には地盤が基礎を介して構造物から伝えられる荷重を支えきれない保証がないと、構造物は成立たないことになる。そこで、本講義では基礎の役割を理解したうえで、各種基礎の概要や設計するための必要な基本的な知識・技能を習得する。	
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築応用力学	(概要) 建築構造物の力学的挙動を詳細に分析し、その知見を設計に反映させるためには、これまでに習得した構造力学系・振動系・材料系科目に加えて、より高度な解析手法や材料の知識が必要となる。本講義では、今一度弾性力学の基礎理論を中心に解説するとともに、材料の力学特性として強度や破壊に関連する事項を扱い、建築構造へ応用する考え方について概説する。 (オムニバス方式 全15回) (9 小山 智幸/5回) 材料の性質、強度・破壊 (16 松尾 真太郎/10回) 弾性力学全般	オムニバス方式
専攻教育科目	学科専攻科目 構造科目	建築耐震設計	(概要) 我が国は地震大国であり、建物の耐震設計は重要な課題の一つである。日本の耐震設計法は、耐力に基づく終局強度設計法と、応答変形についても評価しようとする性能設計法に大別される。本授業では、これまでの地震被害の分析から地震荷重の性質や建物の力学的性質に基づく地震応答についてまず理解する。その後、特に建物の終局状態にいたる挙動を塑性理論に基づいた解析手法により明らかにする。このような現象に基づいて現行の耐震設計法が成り立っていることを理解し、中でも保有水平耐力計算による耐震設計法、ならびにその活用法について重点的に学習する。講義の中盤では、木質構造特有の耐震設計の考え方について概説する。また、近年急増している超高層建築物や大スパン構造物などの大規模建築における耐震設計では、地震応答解析に基づく動的設計法が採用されているが、これについても本講義で解説する。 (オムニバス方式 全15回) (4 蛭川 利彦/3回) 耐震設計法、耐震規定 (16 松尾 真太郎/8回) 塑性解析・設計 (10 佐藤 利昭/4回) 木質構造の耐震設計	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	測量学・実習	測量は、社会基盤整備の計画・実施・評価・維持管理にあたって、現況把握や位置計測を行うための基本となる技術である。測量は建設現場で利用されるだけでなく、むしろ計画・設計・維持管理段階において利用されることが多いため、官公庁や設計・施工・維持管理会社などの各分野における技術者に必須の知識である。本講義では、測量の基礎的な知識の習得、さらには、測量に必要な各種の器械器具（レベル・トランシット・光波など）の取り扱い方や種々の測定法に関する基本的な技術と計算法を習得するとともに、近年の最新の測量技術であるリモートセンシング、GPS測量、地理情報システム（GIS）などの応用測量について学び、測量に関する理解を深める。	
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	テクノロジー・マーケティング	高性能であればあるほど製品が売れるとは限らない。顧客の今の要望に合わせてばかりでは、革新的なイノベーションに手をつけられない。市場に受け入れられる性能、価格等を適切にバランスさせて、初めて売れる商品となり、その上で“市場の半歩先”を行くことで初めて新たな市場を切り拓くことができる。本講義では、仏国の名門ビジネススクールINSEADで開発された経営シミュレーションゲームを用いて、製品開発から販路の選択、価格の決定、人事配置、広告戦略等にわたる多彩な意思決定スキルをグループワークを通して実践的に習得することを学習目標におく。	
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	数理解析概論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 常微分方程式の解法・求積法 2. 定数係数線形常微分方程式 3. ラプラス変換の基礎 4. フーリエ級数展開 5. 弦の振動の方程式の解法 6. 熱方程式の解法	
専攻教育科目	学科専攻科目	工学一般科目	複素関数論	以下の内容をクラスの理解度に応じた進度で講義形式で教授する。 1. 複素数・複素平面 2. 複素変数の関数と正則性・テイラー展開 3. コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 4. 極・零点・ローラン展開と留数定理 5. 留数定理の実積分などへの応用 6. 1次分数変換 7. 等角写像とその応用	
専攻教育科目	卒業研究		建築学卒業研究	大学の学部における建築学学習の集大成として、建築学に関する専門的な研究を行い、その成果を卒業論文や卒業設計としてまとめる。卒業研究の進め方として、所属する研究室を選択し、以下の2つの方法から1つを選択する。 イ) 卒業論文だけを提出し、卒業論文発表会で発表する。 ロ) 卒業論文と卒業設計を提出し、卒業設計を発表会で発表する。	